



左官を行なうと建物らしさが出てきます。



内装左官は終了し、木製の窓や空気穴も既に設置しました。

内装の左官は終了し、外装の左官を職人たちは行ないます。右の写真のように、仕事の合間に学校を見学する大人がいます。彼に校舎を見た感想を聞くと”思っていた以上に大きくて驚いています。この校舎であればたくさんの学生たちが通えるので、自分の子どもや親戚の子どもたちにも通うように伝えます。”とっていました。

雨季のカンボジアは毎日雨が降ります。しかし、日本と違い降り始めても1~2時間程度で雨は止みます。職人たちは雨の降る前にいかに作業を進められるかが、雨季の建設作業では重要になると言っています。前回の報告書から時間が経ちますが、雨のことを計算に入れて作業を進めているので、順調に作業は進行しています。



校舎裏側

左側は左官作業をまだ行っていません。真ん中の壁面は一旦セメントを乾燥させています。右側の壁面は乾燥を終えた校舎に更に左官作業を行っている最中です。



校舎の大きさに驚く村人



↑屋根にはたくさんの穴

手前の子どもはまだ小さいので、話を聞いているだけです。他の子どもたちは、机に向かい授業を受けています。学校とは違うので、机や椅子もすわり心地はあまりよくありません。子どもたちからするとどんな場所でもいいから勉強をしたいと強く思っているようです。

↓学生たちと撮影



教育施設はカンボジアの公立の学校とはカリキュラムが違うので、8月9月も勉強を行なっています。公立の学校はこの2ヶ月間は勉強をせず、子ども達は休みになるので、ともだちと遊んだり、親の仕事のお手伝いをしたりします。しかし、こちらの教育施設では勉強したい子どもたちのために8月も9月勉強を教えています。

↓教室での勉強風景



どうして勉強したいのか彼らに尋ねると色々なことを知ることができるからと言っていました。ここに通っている学生は学校建設後にサインチョムラーウン小学校に通うことになります。この教育施設で学んだ基礎知識を活かし、彼らが新しい校舎で他の学生たちを引っ張っていく存在になるかもしれません。

どうもありがとうございます。